

『セカンドライフの就労モデル開発研究』

JST/RISTEX「コミュニティで創る新しい高齢社会のデザイン」
研究開発領域第1回シンポジウム

セカンドライフの就労モデル開発研究 ～生きがい就労事業の開発と効果検証～



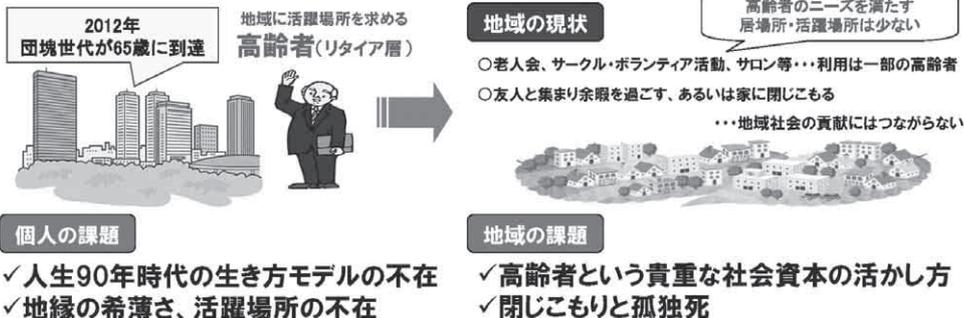
2012年2月22日

研究代表者: 辻哲夫 (東京大学高齢社会総合研究機構)



1. 背景

都市(近郊)の急速な高齢化の問題。地域に活躍場所を求めるリタイア層に対して地域はどのような準備を行うべきか？



高齢者を(自然に)外に引き出す工夫・環境整備が重要



2. 「就労」で課題を解決



高齢者、特に都市部リタイア層にとり最も抵抗の少ない社会参加のかたち

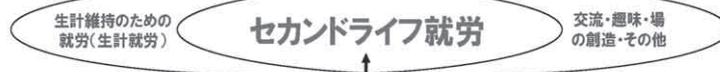
- 現役時代から慣れ親しんだ生活スタイル
- 帰属意識、社会的役割が明確に与えられる

ただし「現役続行」は問題の先送り。セカンドライフに応じた新しい働き方が必要。

- 無理なく、出来る範囲で働く…就労時間、場所、内容の調整
- 地域貢献、趣味を活かす、人との関わりを求める…生計労働から「生きがい労働」へ
- 若年労働者の仕事を奪わない…高齢者ならではの働き方、世代間ワークシェアの開発



これらが両立する就労は、個人の心身の健康維持に寄与するとともに地域社会の課題解決にもつながると予測



- ◎働きたいときに無理なく楽しく働ける + ◎地域の課題解決に貢献できる

2

3. プロジェクトの概要

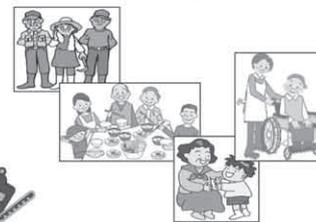
体制

東大、柏市、UR都市機構、柏市内に拠点を持つ株式会社等、柏市住民が協働でプロジェクトを進める



目標

1. 「農」「食」「保育」「生活支援」の4つの側面から7つの就労事業モデルを創造し持続的な事業運営の確立を目指す
2. 当該事業が高齢者自身および地域社会に与える複線的な効果を検討する

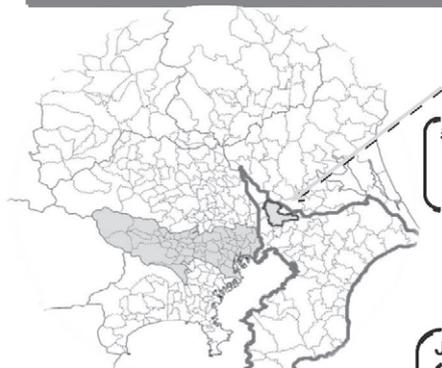


成果

セカンドライフ就労事業の開発・運営のプロセスをマニュアル化他地域への普及をめざす



* プロジェクトの舞台



千葉県柏市

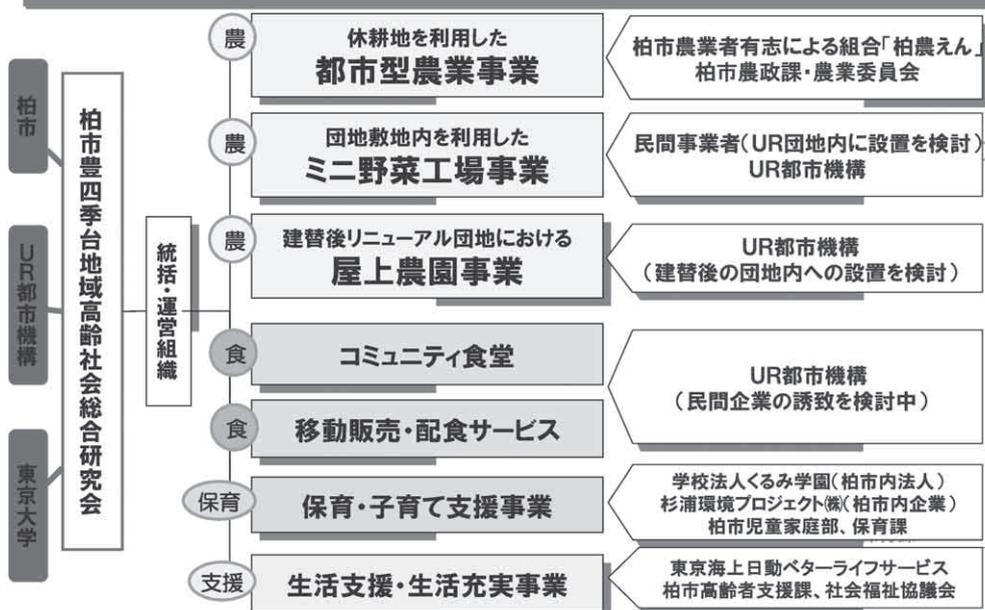
都心から30キロ圏。電車で3-40分。東京近郊都市として発展
昭和30年代後半より急激に人口増。現在人口約40万
高齢化率 2010年約20%→2030年約32%

豊四季台地域

JR柏駅の西側、徒歩約12-20分に位置する旧公団開発の大規模賃貸団地「豊四季台団地」(管理開始昭和39年)およびその周辺の住宅地でマンションや戸建てが混在。
豊四季台団地は高齢化率40%、周辺地域は20%弱。
団地は現在UR都市機構による建替えが進んでいる。



4. 事業実施体制

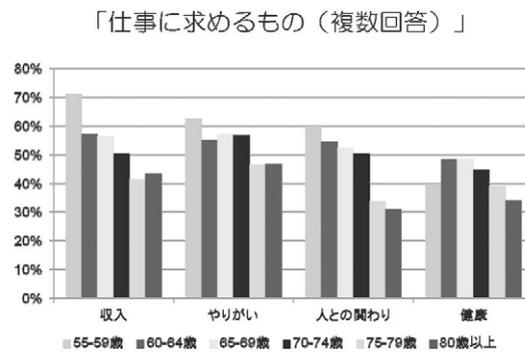
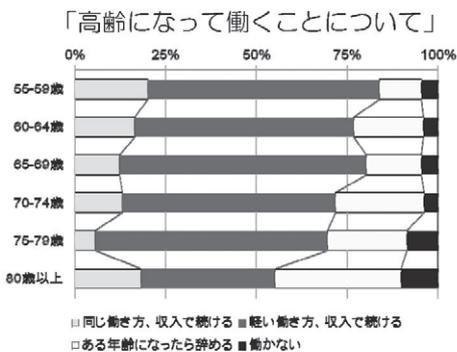


1971年東京大学法学部卒業後、厚生省(当時)に入省。老人福祉課長、国民健康保険課長、大臣官房審議官(医療保険、健康政策担当)、官房長、保険局長、厚生労働事務次官を経て、2008年4月から田園調布学園大学 教授、2009年4月から東京大学高齢社会総合研究機構 教授を務める。現在、東京大学高齢社会総合研究機構 特任教授。厚生労働省在任中に医療制度改革に携わった。著書として、「日本の医療制度改革がめざすもの」(時事通信社)等がある。

5. ベースライン調査より

調査概要

- ・ 訪問面接調査(2011年4月実施)
- ・ 対象者: 柏市北部を中心とする5地域(豊四季台団地、団地周辺地域を含む)に居住する55歳以上から無作為に抽出した2000名(回収数1133、回収率56.7%)
- ・ 回答者の属性: 男性44.7%、女性55.3% 平均年齢68.0歳



「セカンドライフ就労」を求める声が高いことを確認
(とくに60代から70代半ばの元気シニアがターゲット層)

柏市住民を対象とした「就労セミナー」の様子(H23年11-12月)



柏市住民を対象とした就労セミナー
「セカンドライフの新しい就労を考える」開催
(平成23年11月より)

第一期生(60名弱)は全4回の講義を修了
一部の方は事業者との面接を経て働き始めている

← データ収集へ協力し身体機能測定を受けるセミナー修了者